

# 岐阜農林事務所の普及活動状況

平成26年2月28日現在

## 今月の重点活動

### ■ えだまめ **26年産の播種開始**

26年産の播種が1月25日から始まった。出荷前半の販売を強化する目的で、これまでより5日早い播種に取り組んだ。今後、基本管理を徹底し1100tの出荷を目指す。各地で実施している栽培研修会において、農薬の安全使用の徹底はもちろんのこと、出荷量増加に向けた意識啓発を、岐阜えだまめの現状と課題を踏まえて情報提供した。



【播種作業】

## 活力ある新産地づくり

### ■ アスパラガス **春芽収穫に向けて準備中**

アスパラガスは上手に管理すれば10年以上収穫することができるため、本年も良い芽がたくさん出るよう、手入れを促している。農業普及課は、もとすファームに対し、大敵である茎枯れ病や斑点病の病原菌を茎葉の中で越冬させないように、アスパラガスの茎葉処理と畦の焼却から土づくりを指導した。今後（2月下旬ごろから）「保温」に入り、萌芽（ほうが）を促し、アスパラガスの春芽の収穫を迎える。



【バーナーで畦を焼却処理】

## 売れる農畜産物づくり

### ■ 水稻種子 **26年産健苗育成に向けて**

25年産コシヒカリでは4月育苗で出芽むらが発生、6月植ハツシモでは細菌病が発生し、現地から数多くの相談を受けた。25年産種子も休眠が深くなる高温登熟条件と、種子生産圃場でも籾枯細菌病が発生した。農業普及課は、26年に管内JAで使用されるコシヒカリとハツシモの種子を事前に入手し、休眠確認の低温浸種条件下の、籾枯細菌病確認の高温多湿条件下での発芽状況を調査した。これらの結果を3月4日のJA営農指導員育苗研修会につなげる。

### ■ かき **早秋・太秋栽培マニュアル作成に向けて**

岐阜地域の早秋、太秋の導入拡大を目指すため、早秋・太秋の栽培マニュアルを作成中であり、2月の現地柿園にて、農業経営課と共にせん定前後の写真比較を行った。栽培マニュアルは、農業経営課と協力して「摘らい、摘果、施肥」などの項目を加え、栽培を体系的にまとめて、3月に完成する予定である。

### ■ 小菊 **瑞穂市おんさい広場出荷者小菊講習会**

2月13日に、瑞穂市おんさい広場出荷者協議会栽培講習会（出席者50名）において、春まき野菜の栽培と併せて、小菊の栽培管理についての講習会を開催した。農業普及課からは、8月出荷の作型を中心に、親株管理から収穫までの管理ポイントについて説明を行った。JAぎふからも、切り花はおんさい広場でも売れ筋のひとつであり、生産を拡大して欲しいとの呼びかけがあった。

## 戦略的な流通・販売

### ■ いちご **学校給食に地元産いちごジャム採用**

岐阜市では、いちご部会と関係機関が連携して、いちごジャムを作り、岐阜市内の小中学校の学校給食（37,000食）に提供した。地元のふるさと食材として、各学校へPRを行ったため、子供たちの反響も高く、今後も継続していきたいと意欲が高まった。

## ■ほうれんそう 出荷量徐々に増加

2月に入り、トンネル被覆したほうれんそうの生育が前進し、一時的ではあるが出荷量が増加した。また、1月26日にアクアウォーク（アピタ大垣店）で開催された「ぎふ野菜であったか鍋を楽しもう！」イベントにおいて、冬春ほうれんそうのPR支援を行なった。



【イベントでのPR】

## 多様な担い手の育成・確保

### ■いちご 研修生の就農に向けた準備

J A全農岐阜いちご研修生の就農準備を関係機関が連携して支援を行っている。今回は経営開始の資金調達方法の一つとして、就農支援資金等の説明会を開催した。経営当初は資金が多く必要とされるため、上手に使った経営をアドバイスした。

### ■かき 学習園で栽培技術を習得！（瑞穂市）

瑞穂市柿振興会は、栽培経験が浅い会員を対象に年間を通じた栽培管理を実習する「かき学習園」を瑞穂市内に設置している。今年は、間伐・せん定をより実践的に学びたいとの参加者の意向を受けて、これまでの園を変更して2月9日に間伐・せん定研修会を開催した。農業普及課は振興会役員と協力して、間伐・せん定を実演し、参加者を個別に指導した。今後、摘らい、摘果、収穫の1年を通じた研修会を開催する予定である。

### ■指導農業士会 第2回役員会を開催

岐阜地域指導農業士連絡協議会役員会を開催し、総会の開催及び新規役員について協議を行い、3月14日に開催することとした。研修会は、従業員を雇用している会員も多いことから「農業の労務管理」について、社会保険労務士戸崎正文氏に依頼することとなった。また、26年度は指導農業士2名、女性経営アドバイザー3名、青年農業士5名が各市から推薦があり、認定される予定。

## 魅力ある農村づくり

### ■集落営農システム化 柿野地区

1月23日山県市柿野本郷地区で、山県市役所と自治会長外地元住民4名そして農林事務所が加わって、集落営農を進めるために行うアンケート調査について検討した。アンケート実施の前に、今後の農業について儲からないことや、やる人がいないことなど、現状への不満や不安が発言された。一方で、先祖からの農地を荒らしたくない、耕作放棄地を増やしたくない思いや、仲間ができれば農業も楽になるかもしれない期待の発言もあった。それらを含めて、非農家を含めアンケートを実施しようという目的を再確認し、記名式で農地保有や耕作の有無、機械の所有についても記載することとした。2月の山県市広報配布時に、全世帯へ1戸1回答として配布された。

## 県民みんなで育む農業・農村

### ■瑞穂市学校給食用野菜生産グループ（馬鈴薯栽培研修会）

2月17日J Aぎふ巣南支店において学校給食用馬鈴薯の栽培研修会を開催した。普及課から肥培管理の指導および、夏休み前の6月から収穫できるよう浴光催芽の実施についての説明と定植時期の確認を行った。また、給食用に栽培している品種は調理適性が良い一方で、他品種と比べイモが緑化しやすい特徴があるため、収穫や貯蔵には十分注意するよう指導した。